



無鹿町地区

広大な田圃と一本道の先に小さい集落がある。

昼間は遠くの山々が見え、きもちのよい空が広がる。

鳥や農作業をする人が見える。

夜になると寂しく街灯がつくだけで山々は大きな影になる。

▶ 家族の待つ家々に帰る中学生が、自転車に乗って駆けぬけていく。

back to home 【帰路】 しろ

石倉未那美 Minami Ishikura

写真 H300×W360 (cm) サイズ可変

陽が落ちる、夜が来る
少し手前の帰り道、
遠くの明かりがきわだつ。

ただ広い無鹿の田圃を突っ切る道路を
帰るひとの見る景色を
ただ広い無鹿の田圃の真ん中に
掲示する、
真直ぐの道の見慣れた景色のなかに
突然あらわれる黒い影は、
よく見ると見慣れた帰り道。



写真はすべて無鹿町周辺で撮った。

夕暮れから夜にかけての時間帯、車のヘッドライト、川面に映る明かり、
少ない街灯、遠くに見える街の灯、

暗いなか写真を撮っていたらママチャリに跨がりヘルメットをかぶった部活帰りの
中学生に「こんばんは」と挨拶をされた。

田圃に展示をするのに、地主の方にとってどれだけ田圃が尊いものなのか
知らなかったわたしは説教をされた。

地元のおじさんや青年に天気のことや田圃や道具の扱い方やなにやらなにまで
教えてもらった。

雨風の吹き荒れるなか、稲刈りを終えた田圃は再び水田になった。

知っているようで知らないことはたくさんあった。

back to home

【帰路】 しろ

家にかえる、その道。